

基本認識

日本農業の特徴 : 鮮度・品質・健康を重視する日本の食文化を背景に、きめ細かい品質管理

こうした特徴を活かして…

今後の基本方向 : 企業家精神を有する農業経営者が、異業種との連携や最新の科学技術も活用しながら、生産から販売までを視野に入れた経営を展開

農業活性化のための課題

(1) 企業家精神を有する農業経営者の経営展開

農産物の販売力の強化

・市場への「出荷」から、消費者等への「販売」に移行
異業種との連携

・販売、財務等の経営能力を高めるため、異業種と連携

・団塊の世代をはじめとする異業種で活躍した有能な人材を活用

農業者自らも加工・外食分野に進出

バイオエタノール原料など、非食用分野への生産・販売も拡大

IT・ロボットなど最新の科学技術を活用

担い手たる集落営農については、今後、本格的な法人経営にするか、地域内の農業経営者に営農を委ねるか、のいずれかの方向を目指す
高い生産技術を有する人材と、経営能力のある人材とを組合せて活用

(2) 農地政策の改革

企業家精神を有する農業経営者の規模拡大の観点から、非効率な小規模分散状態となっている農地を、農業経営者に面的に集積。農地の利用を軸として、農地政策を抜本改革

(3) 中山間地域の活性化

一定の直接支払いをベースとしつつ、地域の特性を活かしたブランド化等により、都市住民と連携して生産を維持

(4) 国際展開のための環境整備

農林水産物・食品の輸出促進

東アジアへの食品産業の進出

日本の食文化・日本ブランドを海外に発信

こうした課題を解決することにより、

農業が「儲かるビジネス」となり、産業として自立
農村地域も活性化
アジア・世界に開かれた活力ある産業に転換